

有機栽培で廃棄せざるを得ない野菜が大量に出ている現状を知り一般社団法人Es(奈良市橋本町・下田英吾代表理事)は、それら廃棄される有機野菜を活用した食品ロス解決に向け、食べられる染料「抹茶」(まっさい)を開発した。口に入れても問題のない「抹茶」で行うアートや書道体験は、子どもや高齢者さらには障害のある人、誰もが安全、安心に参加できる。下田理事に商品開発の流れや、「抹茶」にかける思いなどを聞いた。

Made  
in  
奈良

奈良市 一般社団法人Es

山口貴義さん  
有限会社山口農園 代表取締役社長

下田英吾さん  
一般社団法人Es 代表理事

# アートを切り口にした新たな食品ロス解決法

「抹茶」を作ったきっかけは。

令和2(2020)年の、完全有機栽培をされている山口農園さんとの出会いがきっかけです。そこで商品にできず廃棄せざるを得ない野菜が山のようにある現状を見させていただいて、「これは何とかしないといけない」という思いから、翌年の同3(2021)年に法人を立ち上げました。そこから「食べるSDGs」をコンセプトに、茶をペースト状にする技術を使い、緑色のあせることがない葉菜ペースト「ナラグリーン」を完成させました。

そして飲食店へ商品の営業を行う時期に、第7波ぐらいたったかと思いますが、再びコロナの波が訪れ、行くことができませんでした。その時に、食品ロス問題解決を、食べることで解決できない、もっと色々な人が関わることができる商品の開発が、今後の社会課題に必要ではないかと思い至りました。

「そこから、「抹茶」の誕生につながるのですね。」

まず、ナラグリーンの、緑色が色あせない特徴に着目して染料を作りました。そんな時に、SDGs関係で一緒に仕事をさせていた

だいた書道家さんから「染められるんだったら、墨として紙の上に書くことはできませんか」という依頼があり、それが「抹茶」の誕生になりました。

「どのような流れで完成に至ったのですか。」

野菜だけの染料ですと水分が多くて油分がなく、紙の上にはぼ乗りません。また油をあわせるにも「食べられる」ということを目指していましたので、ニカワや墨汁に使われている油は使用できません。

試行錯誤の末、茶の油分と野菜の水分を掛け合わせることによって、紙の上に乗っても色あせず使えることになったり着きました。そうして去年の令和5(2023)年3月に「抹茶」として、世に出たという流れです。

「こだわった部分は。」

添加物など不純物を一切入れずに有機野菜のみで作るということ、食べて味がおいしいということにこだわりました。味は、抹茶に寄せています。野菜を多くすると、青臭くおいしくないものになります。

例えば100gであれば、チンゲンサイと小松菜と水菜などの野菜が半分の50g入っています。これ以

## 廃棄せざるを得ない有機野菜を活用 食べることができる染料「抹茶」開発

上入れると青臭くておいしくないものになります。かといって野菜が少なくなりすぎると今度は固くなりすぎ、書くことが困難になります。そうした調整に半年近く試行錯誤しました。

「使用されている廃棄野菜は、こういった状態のものですか。」

2パターンあるのですが、仮に収穫したハウレンソウ200gの場合、出荷先のスーパーなどで1袋170gであれば30gを人の手で強制的に調節されます。もう1パターンは、葉折れや虫食いなどで商品にできない野菜です。山口農園さんでは、毎月トン単位でこういった野菜がでていくそうです。

こういったものは1次産

業から出ている、見えない部分です。家庭などで出るものだけではない食品ロスという問題を、どう社会に伝えていくかということを考えた結果、法人化をして、子どもたちにしっかり伝えたいと考えました。

「抹茶」を使ったイベントを開催していますね。

これまで抹茶を使った書道パフォーマンスや、子どもだけでなく有料老人ホームさんなどでもイベントを開催させていただきました。また、全国の子どもたちから募集した「未来のひともし」では、室生寺さんで書道寺子屋体験などのイベントをしました。1位に選ばれたのが「笑」という文字で、そのイベントで書道家さんに書いていただきました。

文字を書いた「抹茶」はもちろん、捨てられる昆布から作った和紙、作品を貼っている台が、コロナ対策

で必要がなくなり捨てられるアクリル版、そういった全て捨てられるものだったものが、1つのアート作品へと生まれ変わりました。

「最後に。」

「抹茶」は食べるだけでなく、どまらずに誰でも安心して安全に活用できて、なおかつ子どもたちが、わくわく楽しめる。食べられて、なおかつ染料としても使えるというのはいくらもありません。商品を紹介するときには「抹茶」のSDGsに含まれる「誰もが」という言葉を使っています。障害のある子どもや、寝たきりの高齢者がアート作品を作るのは難しい部分があります。しかし「抹茶」であれば手形でもアート作品にすることができ、絵の具と違い、口に入っても問題がありません。そういった安全安心に誰もが携われることが非常に大きな部分です。



子どもたちが「抹茶」で自分の手形をつけて完成したアート作品



<https://nakanekosensai-seds.com/>